強い東北の創造　**縦」、横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進**

事業名	格子状骨格道路ネットワーク事業 （東北６県）

事業の必要性・事業の概要

事業の概要」

都市間距離と峠と雪を克服し、広域的な交流・連携を促進するとともに、都市と周辺市町村との連携による新しい地域間のつながりを支援するため、高規格幹線道路と地域高規格道路による４本の南北軸、７本の東西軸で構成される格子状骨格道路ネットワークについて、投資効果を最大限に発揮できるよう重点的かつ効率的に整備を進めます。また、新直轄方式の高速自動車国道（3路線 7区間）について、引き続き事業・調査を進めます。

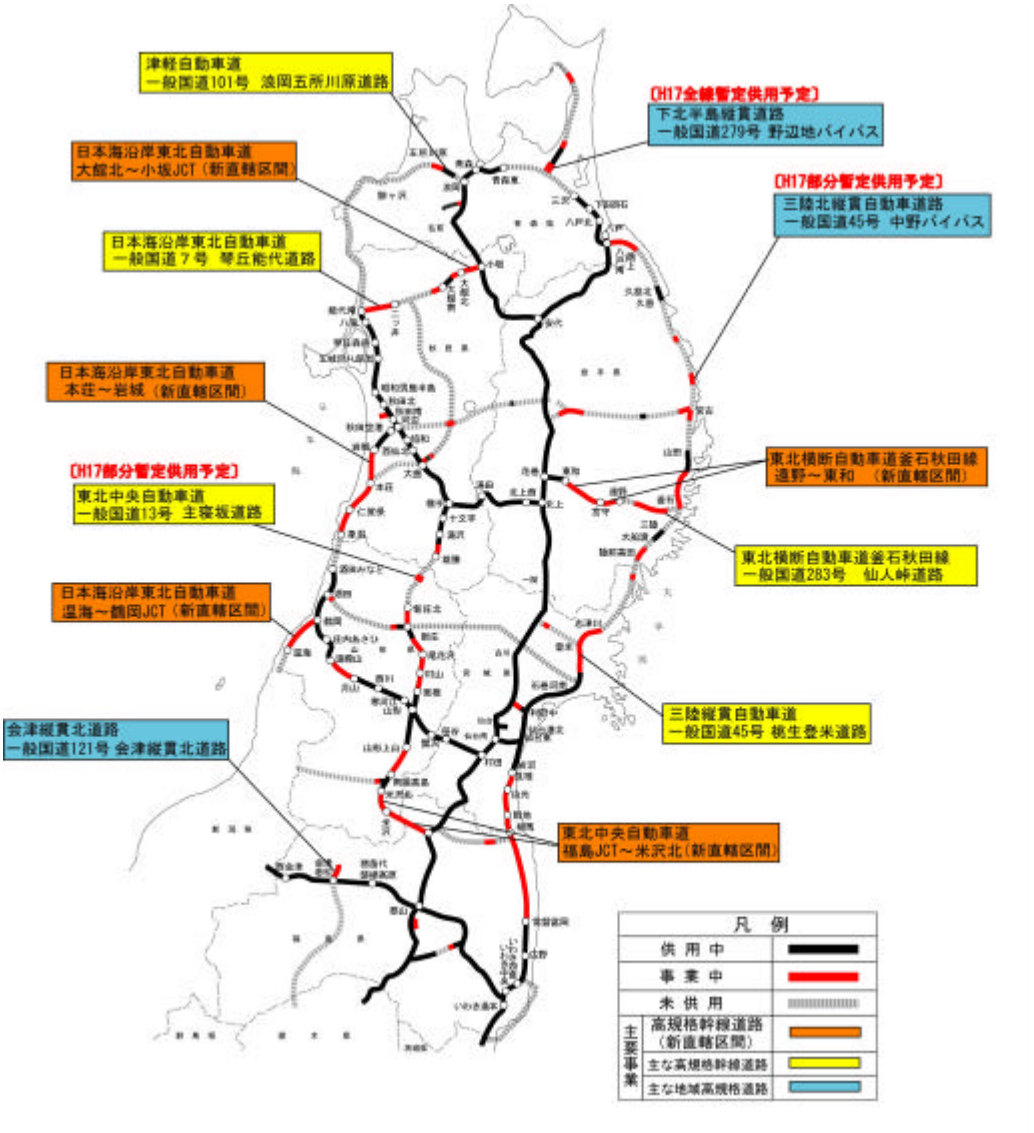
【延長（km）】

		全体計画	H１６末まで	H１７供用予定	H１９末まで
高規格幹線道路	全国	14，000	8，740	－	－
	東北	2，204	1，389	5	1，519
地域高規格道路	全国	6，950	1，620	－	－
	東北	660	82	6	112

成果目標	現在	５年後	長期
規格の高い道路を使う割合	8%	約 9%	約１５%

※目標年次は、「社会資本整備重点計画」(H15～19)に即し、H14年度末を現在とし、５年後(H19)の目標値を設定。

東北地方における自動車専用道路ネットワーク]



H16.8.26 現在　　※事業中には高速自動車国道の整備計画区間、及び着工準備区間を含む

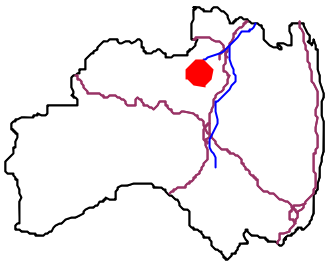
強い東北の創造　縦」、横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進

事業名	一般国道１１５号　土湯（つちゆ）バイパス（補助：事業主体　福島県） （福島県福島市（ふくしま）～耶麻郡猪苗代町（やまぐんいなわしろまち））

事業着手：昭和５６年度	完成・供用の目標年度：平成１７年度全線完成供用予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

一般国道１１５号は、福島県が掲げる“7つの特色ある生活圏が相互に連携した県土づくり”において、福島市を中心とした県北地域と会津若松市を中心とした会津地域を直接結ぶ重要な路線に位置付けられております。

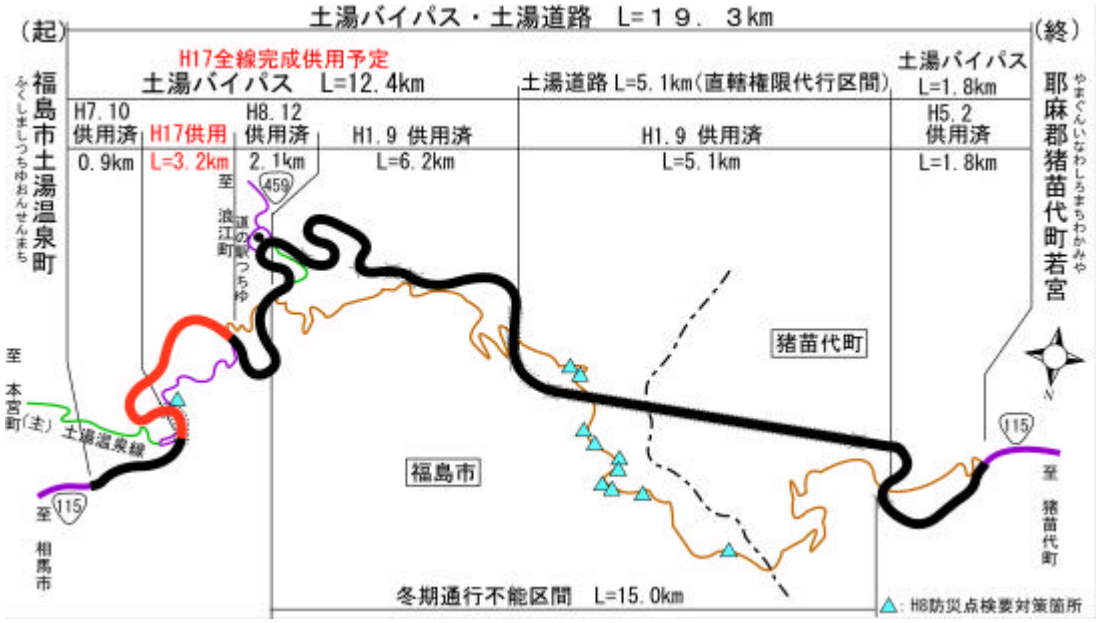
しかし、福島市～猪苗代町間に位置する土湯峠は、冬期間は通行止めになるため、一年を通しての通行が課題となっておりました。さらに道路幅員が狭く急カーブ（最小R=25m）、急勾配（最急9.4%）が連続し、平成８年度の防災点検において、「要対策」と診断された箇所が１１箇所存在しており、早急な安全対策が必要となっていました。

「事業の概要」

土湯バイパスは、平成元年度に直轄権限代行として完成供用した土湯道路(L=5.1km）と一体となり、「雪と峠」の克服を目的とした、延長L=14.2kmのバイパス整備事業です。

土湯バイパス及び土湯道路の全線完成供用により、現道のL=29.0km区間がL=19.3kmで結ばれることになります。





平成１７年度事業費及び事業内容

○事業費：2，000百万円
○平成17年度にはL=3.2kmが供用予定であり、既に供用済みの区間L=11.0kmと合わせ、全線L=14.2kmの完成供用予定です。

事　業　効　果

○福島市から猪苗代町までの時間短縮　94分（整備前）　→　70分（全線完成供用後）　24分短縮
○冬期通行不能区間　15.0km　→　解消
○H8防災点検要対策箇所　11箇所　→　解消